

# 文化



磯村敏之・画

文壇・論壇の在り方に鋭い「批評」の矢を放つ最新評論集だと銘打った江藤

## 波

淳の「批評と私」(新潮社)

が発刊された。その巻頭

には、ちょうど四年前の

「新潮」に載

って話題を集

## 大

め、週刊誌までがとりあ

げた「ユタの季節——「徒

党」と私語」の構造——」

が収められている。

なぜ、この論文がそれほど

話題になったかといえ

ば、江藤がそこで従来仲間

だと思われていた粕谷一

希、中嶋嶺雄、山崎正和を

闊討(やみう)ち的に批判

していた。

## 改竄ざんとは言わぬが

し、彼らを「ユタ」つまり

裏切り者」だと公言した

からである。

当時の江藤は、極端に右

旋回しつつあったときで、

「新潮」の文庫には血迷っ

たとしか言いようのない長

文の「付記」が付されてい

て、「中央公論」が「ユタ

の季節」の掲載を拒否した

のは「検閲」だといきまい

ていることに感慨なきを得な

い」と強い言葉を投げつつ

も、いかにも粕谷らしく、

「江藤氏の平衡感覚の回復

を待ちたい」と結んでいる。

その江藤が「ユタの季

節」を自著に収録するに当

たって、あの「付記」を削

除したのは、平衡感覚回復

の兆しだろうか、それとも

羞恥(しゅうち)からだろうか。

(キリスト)

## 一章

あったか、なかったか、そこでも消費面でも、農民たちが